

「結石性胆管炎に対する緊急内視鏡的ドレナージ後の早期炎症改善に関する後方視的集積研究」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2021年11月24日～2023年12月31日

〔研究課題〕

結石性胆管炎に対する緊急内視鏡的ドレナージ後の早期炎症改善に関する後方視的集積研究

〔研究目的〕

本研究の目的は、結石性胆管炎に対する緊急内視鏡的ドレナージ後の早期炎症改善効果とその影響因子を後方視的に評価することです。

〔研究意義〕

結石性胆管炎は、胆道結石による胆道閉塞のため発生し、敗血症などの重篤かつ致死的な感染症に進展しやすい病気です。そのため最新のガイドラインでは、抗生剤などの保存的治療のみで完治しうる一部の軽症例を除いて、急性胆管炎に対して早期の内視鏡的ドレナージが推奨されています。既に内視鏡的ドレナージにより胆管炎の大部分が改善することが多数報告されています。

しかし、これらの報告では胆管炎が改善するまでの期間の定義が様々であります。実臨床においては、最終的に胆管炎は改善したものの炎症が遷延したことにより誤嚥性肺炎や廃用症候群などの合併症を引き起こす場合が多く、ただ治すだけでなく早期の炎症改善が求められています。

そこで本研究では、結石性胆管炎に対する緊急内視鏡的ドレナージにどの程度早期炎症改善効果があるかを検討し、その影響因子を後ろ向きに抽出することを目的としています。その結果が今後の臨床に役立つと考えています。

〔対象・研究方法〕

研究は2014年7月から2020年10月までの期間に当施設において結石性胆管炎に内視鏡的治療を施行した症例を対象にします。

調査する内容は主に以下のとおりです。

患者基本情報(年齢、性別、胆管炎の重症度、乳頭処置の既往、胆管狭窄の有無、結石数、結石径、発症時と内視鏡的治療後の採血結果)、手技(手技成功の有無、留置したステント先端形状、内外瘻化、手技関連偶発症の有無と内容)、長期偶発症(内容、種類、重症度、発生日、死亡日)など。

これらの個人情報が漏出することのないように患者個人を特定できないようにコード化した後に登録します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院消化器内科

〔個人情報の取り扱い〕

研究にあたっては、対象となる方の個人を同定できる情報は一切使用致しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:土井 晋平 (准教授)

研究分担者:勝倉 暢洋 (助教)

所属:帝京大学医学部附属溝口病院 消化器内科

住所:〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1 TEL:044-844-3333 (代表)